

櫻坂を緩歩中

公立高校入試と私立高校入試

道内の場合、公立高校入試と私立高校入試では、合格者の選抜方法が異なります。「大きく異なっている。」と言っても過言ではありません。おおよそ下記のように公立高校と私立高校の合格者が選抜されます。ご理解ください。

【公立高校】

学習点（いわゆる「ランク」）と学力点（いわゆる「入試得点」）の結果から相関表を用いて合格者を選抜します。

合格者の選抜には競争原理がはたらきます。定員280名の公立高校であれば、上位280位までが合格となり、入学を辞退する生徒がいた場合、281位の生徒から順に追加合格となります。そこで、「●ランク以上は合格する。」とか「●●●点以上は合格する。」と明言することはできません。

また、学習点と学力点の結果を相関表を用いて合格者を選抜することから、陸上競技で例えるならば、学習点と学力点の2つのハードルをクリアしなければ合格とはなりません。（「複数尺度による選抜」を除きます。「複数尺度による選抜」については、後日、進路通信を通じてお知らせします。）

【私立高校】

高校毎に合格の基準がもうけられており、基準は教員対象の学校説明会を通じて中学校側に伝えられます。例年、9月頃には全ての私立高校の学校説明会が終了しますので、その頃には各高校の合格基準がはっきりとします。そこで、私立高校につきましては、9月頃までは昨年度の資料を使用して、「去年だったら、合格基準内でした。」のように進路相談をすすめさせていただく予定です。

多くの私立高校は「合格基準は●ランク以上です。」といったように、学習点による合格基準を決めております。また、（学習点による合格基準に達していない場合、）「合格基準は、当日の入試得点●●●点（●●%）以上です。」といったように、当日の入試得点（率）による合格基準を多くの私立高校が決めております。

つまり、多くの私立高校の合格者の選抜には競争原理は、はたらきません。（一部の高校や学科、コースを除きます。）

陸上競技で例えるならば、学習点と当日の入試得点の2つのハードルのうち、1つのハードルを確実にクリアすることがもとめられます。

【日本航空高等学校北海道】＝オープンキャンパス（対象＝中学生、保護者）

本日、日本航空高校北海道からいただいたプリントを3年生全員に配布しました。

プリントには、5月10日（土）、5月11日（日）に開催されるオープンキャンパスについて記されております。

オープンキャンパスの参加希望者はプリントに記されているQRコードにて各自で申し込みください。（中学校への連絡は不要です。）

日本航空高校北海道は千歳市にあり、航空科航空工学コースと航空科国際コースの2コースが設置された高校です。

航空工学コースは航空整備士やグランドハンドラーを目指すコースです。一方、国際コースはキャビンアテンダントやグランドスタッフを目指すコースです。

●（大学）薬学部の実態

教員を対象とした高校説明会へ足を運ぶと、大学の薬学部を退学（中退）する学生が多く、高校では進路指導を慎重にすすめている旨の話をよく耳にします。

6年制の薬学部は、薬剤師を社会に送り出すために存在する学部です。

2008年のリーマン・ショックを背景とした就職難で、手に職がつく仕事として薬剤師人気が高まり、2011年頃から薬学部への入学志願者数が急増しました。

2013年から2017年の5年間は入学志願者数が10万人を超えていました。しかし、入学志願者は2014年の12万1431人をピークに減少傾向が続きます。

その一方で、薬学部の新設は続いており、2021年4月の統計では77大学79学部設置されております。（国際医療福祉大学と徳島文理大学は2つの薬学部をもっている。）

このように入学志願者が減っているのにも関わらず、薬学部の定員が増えると、当然、大学間での学生争奪戦が激しくなります。薬学部を目指す高校生へのアピールとして、各大学は薬剤師国家試験の合格率アップに力を入れます。特に、薬学部を卒業してすぐ国家試験に合格する、いわゆる「ストレート合格率」にこだわるようになります。

結果として、ストレート合格しそうな優秀な学生は単位認定されますが、そうではない学生は単位認定されず、留年、退学（中退）する者が増えるというのです。

退学率が50%を超えている大学もありますし、私立大学の多くは20～30%程度の退学者を出しているのが実態です。

●北海道大学薬学部

北海道大学薬学部には4年制の薬科学科と6年制の薬学科があります。

定員は、総合入試入学者と学部別入試入学者をあわせて、薬科学科50名、薬学科30名で、大学2年進級時にどちらの学科に所属するかが決定します。決め方は、本人の意思が尊重されますが、定員を上回った学科は移行点（成績）の良い学生が優先されます。

つまり、薬学部に入學したからといって必ず薬学科（または薬科学科）に所属できるという保証はないのです。

4年制の薬科学科は主として新薬を^{*}創りだす研究を行い、卒業後の進路としては、大学院に進学して研究者としての能力を高めることが望まれます。

6年制の薬科学科は主として将来、薬剤師として活躍できる人材の養成を行います。

※ 北海道大学薬学部のHPによると新薬は「創る」と記されております。新薬を開発するためには創造力が必要なのですね。